

R2年度自己評価結果公表シート

認定こども園新光明池幼稚園

1. 本園の教育目標

幼児の発達や学びの連続性を踏まえ、幼児が多様な経験を一つ一つ重ねていくこと、又五感を通して「自分で体験し感じる」教育を重視している。園生活の中で教員との信頼関係を育て外へのかかわりを広げ、遊びを通して集中力、持続力、忍耐力や豊かな人間関係、知的好奇心や小学校の教科教育の土台となる学びの芽を培う。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・新型コロナウイルス感染症蔓延対策の中での保育・教育の工夫を行う
- ・認定こども園として連続した保育・教育を実現するために工夫する
- ・子どもの学びを促す環境の充実（3歳児以上）、**子どもを尊重する保育の在り方の検討（低年齢児）講師を招いて公開保育を実施【別紙に記載】**
- ・支援を要する子どもをサポートする枠組みの検討
- ・園内のICT化を進める

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
教育課程の編成・実施に関して、	教職員間で重点目標を明確化し、教員間での話し合いを重ねていく
連続した保育・教育を実現するために	・学年が異なる保育者との関係性の構築 →異年齢スタッフが集ってのミーティング →行事担当を異年齢スタッフがペアとなり行う ・学年間でそれぞれの保育を知る →異年齢クラスの保育見学・参加 →ポスター発表研修会を通して（合計4回）それぞれの年齢の保育を知り、それぞれスタッフの興味・関心を知る
教育・保育の充実 及び 子育て支援の充実（コロナ禍において）	・キンダーカウンセラーより、コロナ禍での過ごし方や心的負担軽減のために情報提供 ・オンライン保育懇談会実施（各クラス） ・オンライン子育て相談会実施（2回）
教職員の専門性と質の向上	・各自の保育経験や、園の任務に合う研修を受けられるよう調整する。 ・大私幼のプロジェクトチームに主任を派遣し、他園教員と共同研修を行っている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・学年間での園内研修を定期的に行い、保育者の保育力向上に繋げている。 ・他園の公開保育や行事見学を積極的に行い、自園を振り返る良い機会となっている。 ・要支援児のサポートに関する知識の習得。 ・SDG sに関するテーマに基づき、1年を通して保育研究を行う。冊子作成。
保護者への情報発信	<p>保護者の要望には誠実に対応し、園の方針を理解して頂きながら対応する。園内で教員たちが行っている保育をどのように家庭に伝えていくか検討をすすめている。園内スペースでの掲示の工夫、わかりやすい配布物の工夫などを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品展でのQRコードを使用した動画配信 ・発表会及び卒園式のオンラインライブ配信 ・保護者への情報発信に関するアンケートを実施し実態を把握する
子どもの学び及び遊び環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスに環境充実費を支給し、厳選した教材、玩具や遊具を揃え、環境を整える。 ・壁面等の見直しを行う（子どもにとってどうなのかの視点） ・行事の見直し（それぞれのねらいを再度確認する） ・園庭を使用した活動の充実（いきものがかり、お泊り保育、木々、虫を取り入れての活動）
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・和泉市保健センター、堺市保健センターと連携を取り、支援の必要な子ども達に対して定期的に話し合いを持っている。 ・養成校との連携を促進する

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
概ね達成できた	未知の感染症に振り回される一年となった。一方で、分散登園、クラス別・学年別の行事の実施が通常となり、園側も一人ひとりの子どもたちと関わり、育ちを育むことができたことは大きい収穫であった。保護者に子どもたちの様子をいつも以上に発信する努力も行

	<p>った。また、園内のICT化が一段と進み、スタッフが流れに慣れてきたために、事務作業の効率化も進んできている。活動や行事に関しては極力例年通り実施し、保育者自身がテーマを持ち1年を通して研究を進める等、保育者だけでなく職員の資質向上に力を入れた1年であった。また、オンライン研修会が進み、園内にてスタッフが受講しやすい環境ともなったり、パート職員対象の研修会の参加等、様々なスタッフの資質向上に力を入れる一年となった。本年度より数年をかけて、低年齢児保育を重点的に向上させていく試みを行っている。子どもの寄り添い、安心できる保育を目指していきたい。</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育者がやりがいを感じる職場作り	<ul style="list-style-type: none"> ・時代の流れの中で、保育教諭に求められる仕事の幅が多様化してきている。チームでサポートする方法を検討する必要がある。 ・労務管理の充実を行う
教育・保育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保連携型認定こども園に移行する中で教育・保育要領についての理解が全教員に浸透するよう研修を重ねる必要がある。 ・それぞれの保育は充実してきているがまだまだ連携が弱い。数年かけて連携についての意識を高めていく予定である。 ・低年齢児保育の充実。 ・支援児が増加傾向にあるため、サポートシステムの検討が必要である。 ・2号認定児の増加のため、預かり保育（KR）の内容及び検討が必要である。
保護者への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの育ち、集団での学びや、発達を如何にわかりやすく周知するか引き続き検討を進める ・集団生活の重要性を強くアピールしていきたい。
地域との連携・新たな試み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用、連携し、子どもの学びを深めたい。 ・将来的に異文化教育を取り入れていきたい。

6. 学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。